

「葫蘆島引き揚げの図」と 画家王希奇氏について

中国・東北大学外国語学院副院長、中日文化比較研究所所長 王秋菊

王希奇氏は1960年7月31日に生まれる。氏の描いた「葫蘆島引き揚げの図」の現場となった葫蘆島市の隣の都市、錦州市出身。中国美術家協会会員である。

魯迅美術学院油絵学部で教授を務め教鞭をとりながら、国内外に注目を浴びた「中国国家重大歴史題材美術創作プロジェクト」契約画家として創作活動に取り組んでいる。

中国墨絵の伝統的要素と西洋油絵の現代性を融合した芸術的な特徴が好評を得て、注目されている。

氏の作品は数々の国家レベルの芸術展示会に入選して、特に歴史をテーマにする油絵作品がその独特な画風とオリジナルな

視点を持って世に認められ、数多く収蔵された。

代表作として金メダル賞を獲得した「三国志・赤壁の戦い」（合作）、中国国家重大歴史題材美術創作プロジェクト入選作品「長征」「攻克錦州」（合作）などが挙げられる。現在、中国美術館に収蔵されている。

「葫蘆島引き揚げの図」（3m×20m）と関連作品の創作は、3年前からスタートして、今年の3月に出来上がった。

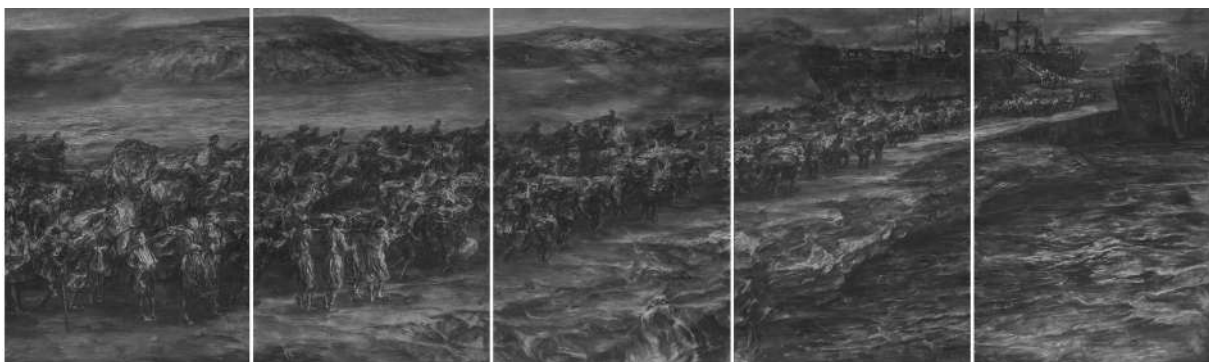
細部まで画家の心血を注いだこの圧巻作は1945年から1947年まで、葫蘆島という港から百万人を超える引き揚げ者のことがありありと描かれ、私たちの目の前に現れてくる。



作品を前にした王希奇（左）・王秋菊夫妻

筆者紹介（おう しゅうぎく）

現在中国瀋陽・東北大学外国語学院副院長、中日文化比較研究所所長、教授・博士



「葫蘆島引き揚げの図」の全景



▲大連・大和ホテル



▲瀋陽市内の街並み



◀街を離れる引き揚げ者



(右頁よりつづく)

「葫蘆島引き揚げの図」 関連作品の紹介

王希奇氏は「葫蘆島引き揚げの図」の制作とともに、当時引き揚げる日本人たちが最後に見たであろう瀋陽や大連の建物や街頭風景、葫蘆島埠頭を独特のイメージで、小品として数多く描いている。作品の一部を紹介する。